

令和4年度 第2回南房総・館山地域公共交通活性化協議会 会議報告

会議の名称	令和4年度 第2回 南房総・館山地域公共交通活性化協議会
開催日時	令和4年8月10日(水) 14時00分～15時15分
開催場所	南房総市役所別館1 大会議室
出席者等	<p>&lt;出席委員&gt;17名</p> <p>鈴木 真 委員(千葉県総合企画部 交通計画課長)</p> <p>鈴木 雄二 委員(館山市副市長)</p> <p>簾谷 幸治 委員(東日本旅客鉄道株式会社 館山駅長)</p> <p>高橋 晴樹 委員(日東交通株式会社 運輸部長)</p> <p>平野 直 委員(鏡浦自動車株式会社 専務取締役)</p> <p>本間 裕二 委員(南房タクシー株式会社 代表取締役)</p> <p>丸山 徹 委員(日東交通労働組合 安房支部代表)</p> <p>齋藤 英貴 委員(安房土木事務所 調整課長)</p> <p>本橋 清一 委員(南房総市住民・利用者代表・白浜地区)</p> <p>山崎 秀雄 委員(館山市住民・利用者代表(連合会長) 館山地区連合町内会長)</p> <p>嶋田 政雄 委員(館山市住民・利用者代表(連合副会長) 富崎地区連合区長会長)</p> <p>松木 拓 委員(国土交通省関東運輸局 交通政策部交通企画課長)</p> <p>代理出席 交通企画課 係長 池田絵里子様</p> <p>平田 伸一 委員(関東運輸局千葉運輸支局 首席運輸企画専門官)</p> <p>木村 泰行 委員(館山警察署 交通課長)</p> <p>鈴木 賢二 委員(安房道の駅連絡会会長)</p> <p>井澤 浩 委員(館山市社会福祉協議会事務局長)</p> <p>為国 孝敏 委員(NPO 法人まちづくり支援センター代表理事)</p> <p>&lt;欠席委員&gt;5名</p> <p>嶋田 守 委員(南房総市副市長)</p> <p>成田 斉 委員(一般社団法人千葉県バス協会 専務理事)</p> <p>竜崎 広幸 委員(ジェイアールバス関東株式会社 館山支店長)</p> <p>高橋 佐一 委員(南房総市住民・利用者代表・富山地区)</p> <p>轟 朝幸 委員(日本大学理工学部交通システム工学科 教授)</p> <p>&lt;事務局&gt;</p> <p>千葉県総合企画部交通計画課(企画調整班) 渡邊班長</p> <p>館山市総合政策部企画課 宮澤課長、大賀係長、小林主事</p> <p>南房総市総務部企画財政課 小澤課長、和泉澤係長、忍足副主査</p>
傍聴人	0人

<p>会議の議題等</p>	<p>&lt;議題&gt;</p> <p>(1) 南房総・館山地域公共交通活性化協議会規約の一部改正について 【協議第7号】</p> <p>(2) 令和4年度実証運行事業詳細について 【協議第2号】</p> <p>(3) 路線バス 白浜千倉館山線のダイヤ見直し進捗状況について 【報告第1号】</p> <p>&lt;その他配布資料&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実証運行計画案（協議第8号関係）差し替え資料</li> <li>・AI デマンド交通「チョイソコ」紹介資料（プロポーザル審査会で契約候補者となったアイシン株式会社のAI オンデマンドシステム）</li> <li>・為国委員作成資料（令和2年の地域公共交通活性化再生法改正を受けた各地での取組事例等紹介資料）</li> <li>・白浜千倉館山線の現行時刻表</li> <li>・ご当地ナンバーに関するアンケートの実施について</li> </ul>
<p>議事概要及び 発言の要旨</p>	<p>別紙 会議要旨のとおり</p>

<p>鈴木会長</p>	<p><b>【鈴木会長 あいさつ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本日はお忙しい中、協議会にご参加いただき感謝する。合わせて、日頃より本地域の公共交通行政に御理解・御協力をいただいていることに対し御礼申し上げる。</li> <li>・千葉県においても、新型コロナウイルスのオミクロン株・BA5の感染者数が高止まりしている状況である。県としては昨年度までのように経済活動の制限が行われないうち、何とか感染拡大を抑制するという観点から、8月4日に、期間を8月末までと定めたBA5対策強化宣言を行ったところ。</li> <li>・そういった状況のため、交通事業者の皆さんにおいては、これまでも感染防止対策に取り組んでいただいているところだが、引き続き対策をしっかりと講じていただくようお願いする。</li> <li>・また、直接関連する話ではないが、先月末に、JR 東日本が利用の少ない線区の経営情報の公表を行っており、この周辺だと内房線の館山～安房鴨川や久留里線など、4路線5区間が利用者の少ない区間として公表されたところ。</li> <li>・4月にJR 西日本で同種の情報が公表されて以降、マスコミ等でも取り上げられており、国の検討会の提言も出ているなど、地方の鉄道路線に関する論議が活発化している。</li> <li>・JRからは「これから議論を深めていくためにこのような情報を開示した」という話を聞いている。県としても、今後JRや関係市町村との議論を深めていきたいと考えている。</li> <li>・本日の議題は次第に記載された3点。それぞれにおいて、皆様からご意見をいただく予定としている。</li> <li>・活発な議論をお願い申し上げ、挨拶とさせていただきます。</li> </ul>
<p>進行 鈴木会長 事務局</p>	<p><b>【議事1：南房総・館山地域公共交通活性化協議会規約の一部改正について】</b></p> <p>○協議第7号資料に従い、6月に一般社団法人千葉県トラック協会から協議会への参画を取りやめる旨の申し出があったことを受け、資料のとおり、別表第1（協議会構成委員の一覧表）から千葉県トラック協会を削除する規約改正を行いたい考えを説明。質疑等は無く、改正について承認された。</p>
<p>進行 鈴木会長 事務局</p>	<p><b>【議事2：令和4年度実証運行事業詳細について】</b></p> <p>○資料（協議第8号の1及び第8号の2）に従い、平群線エリア（対象エリア：南房総市三芳地区及び平群地区の一部、館山市の九重地区及び館野地区の一部）におけるAI デマンド交通実証運行及び豊房線エリア（対象エリア：館山市の豊房神余地区及び神戸地区の一部、南房総市の白浜地区及び千倉地区の一部）における買い物シャトルサービス実証運行の詳細な事業計画案について説明。運行期間やルート、運賃、運行事業者（見積合せにより鏡浦自動車に決定）、AI デマンドシステム導入支援事業者（プロポーザル審査会による審査により、アイシン株式会社に決定）等を説明。公共交通空白地対策アドバイザーである為国委員からのコメント及び質疑</p>

為国委員

ののち、運行計画案ならびに今後国への申請等関係機関との協議を経たのち、運行を開始することについて承認された。

(質疑を受けてのコメント等)

- ・実証運行を行う地域の視察を行い、どういうところで、どういう形態なら乗ってもらえるかという視点で見えてきたところ。
- ・計画策定後の計画推進という点がこれから重要になってくる。南房総・館山地域公共交通計画は、両市で広域的に策定した計画なので、両方の地域をつないでいくことが必要なのだが、それと地域内の交通をどのようにつなぎ、連携していくか、また乗ってもらうかという点が軸になってくる。
- ・これらの地域では今までバスに人が乗っていない。今までバスが走っていないところや乗りにくい場所に路線バスを走らせるわけにはいかないの、小回りの利く地域内交通を走らせてみてはどうだろうということで回ってきたのだが、実際に行ってみるとイメージと違うところもある。
- ・現在、各地でハイエースのようなベーシックな車両タイプあるいは AI オンデマンドシステムを用いた取組が行われている。
- ・正直なところ、私が関わっている群馬県館林市の隣にある明和町での状況を見ている限り、コストが高すぎるという点で AI オンデマンドシステムの導入には否定的なのだが、今回は（コスト面で）状況が違うと聞いている。しかしながら、AI を使うよりも地元のタクシー会社のドライバーの方が道を良く知っている。
- ・特に北海道で実験をやると、AI よりも地元の人たちが良く場所を知っている。そうしたところに資金をたくさん使ってやるのはどうかという印象を持っているが、今回は費用が抑えられたということなので、鏡浦自動車に頑張ってもらえればと思う。
- ・フリー乗降に関してだけは気を付けるべし。利用者（高齢者）が手を挙げていても、運転手が気づかないケースがある。これだけは気を付けてもらいたい。他の地域で、高齢の利用者が一生懸命手を挙げていても気づかずに通過してしまうという失敗を冒したことがある。今回はバス停を作らないが、乗るときは皆不安に思っバス停まで行ってしまふ。降りるときは問題が発生しない。鏡浦自動車においてはドライバーに対し、一生懸命手を挙げたり振っていたら乗ろうとしているかもしれないということを周知いただきたい。
- ・本日は資料を用意したので、簡単に説明させていただく。
- ・今回は実証運行でやるということだが、道路運送法においては、お金を取るかどうかで（対応が）だいぶ変わってくる。
- ・お金を取る場合は、道路運送法に則って必要な申請や運行を行う必要があるものの、無償でやる場合は関係ない。
- ・そのため、各地で「実験のためだけの実験」が頻繁に行われている。乗るかどうか等を役場の車両を使って確認するといったことが良く行われている。

- ・公共交通活性化再生法が改正されてから、国においてもダウンサイジングが言われるようになった。
- ・今までのように路線バスだけではなく、タクシーやハイヤーも公共交通に位置付けられたため、ラストマイルのところまで含め、地域の事情に合わせ、車両を小さくするだけでなく、仕組みも小さくしてお金をあまりかけずに地域の人たちの移動手段をしっかりと確保しましょうという流れになっていることを認識してもらいたい。
- ・その観点から見ると、今回やろうとしている取組はそれに合致していると言える。
- ・事例をいくつか紹介する。北海道津別町（人口約 4,500 人）では、11 月から週 2 回、曜日運行で町内巡回ワゴンを走らせている。お年寄りの買い物等の用事が午前中中心ということもあり、午前中だけの運行としている。午前中にぐるっと回って帰ってこられるような設定としている。ただし、これだと運行曜日以外の日や午後は乗れないので、ハイヤー助成を同時に進めた。
- ・巡回ワゴンは一乗車 200 円。津別市街地は 2km 四方くらいの中に収まるので、タクシーを使ったとしても 2~3 メーター、700 円くらいで済む。ハイヤー助成は 1 枚 300 円という設定にしたので、買い物に行って午後になってしまったり、荷物があったりする場合にはタクシーを使って帰れるよという仕組みになっている。
- ・結果、巡回ワゴンとタクシー助成が相乗効果を生み、利用が増えている。タクシー事業はこれまで赤字だったが、黒字化してタクシー会社の社長も喜んでいる。
- ・タクシー助成券については栃木県佐野市でも行っている。タクシーチケットを配布する場合、不正利用のリスクもあるため、保険証提示で、対象だと把握できれば割引にするという仕組みにしている。群馬県館林地域でも紙で発行する手間とリスクを考え、同じような方法で実証（検証）しており、できればそれをバージョンアップさせ、非接触型で対応していきたいという話も出ている。
- ・各地で AI 等の取組が行われているが、可能な範囲で、地域の实情に応じ、一つずつでも良いので ICT を導入・活用していくということが必要である。IC カードを導入すると言ってもコストが高い。地域の中で、やれる範囲で取り組むということで良いと考える。
- ・もう一つ、北海道遠軽町でも、公共交通網の見直しを進めている。
- ・全体としてネットワークの見直しを図ることとしており、例えば、町内巡回バスは一周 60 分かかっており、ルート・所要時間が長くて利用に結び付いていないといったことがある。津別町は一周 45 分である。そのため、他の路線も含め、今一度利用者ニーズを確認のうえ、全体最適を追求し、持続可能で使いやすい形態にしていく取組を進めている最中である。
- ・色々な人を巻き込まないと、地域の移動手段確保はうまくいかない。交通事業者も運転手が不足していて大変な状況なので、交通事業者の状況、地域の人がどこに、どのような目的で移動するか等を把握し、ターゲットを絞ってうまく組み合わせないと、お金ばかりかかって誰も乗らない状況に陥り、悪者扱いされるのは目に

<p>鈴木会長</p>	<p>見えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画推進時には、そのような事態にならないように。本地域は良い方向でできていると思うので、実証運行にしっかりと取り組んでもらいたい。</li> <li>・取組を成功させるためには、PR をしっかりしないといけない。地域にしっかり入り込んで取組を説明・紹介しないとなかなか乗ってくれない。</li> <li>・コメントをいただき、感謝する。安全面はもちろんのこと、PR 等にもしっかり取り組んでいく必要があることが分かった。また、他の事例をご紹介いただいたので、本日いただいた内容を参考にしながら取組を進めていきたい。</li> </ul> <p>(質疑)</p>
<p>本間委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平群線エリアのオンデマンド交通の運賃について、電話とスマホ予約の両方があると思うが、電話の場合、既存のタクシー配車の受付業務と重複し、負担になることが予想される。主な利用者層はスマホを使いこなせない世代だと考えるが、電話からスマホに誘導するため、スマホ予約の場合の運賃を割り引く等の施策を検討していれば伺いたい。</li> <li>・豊房線エリアの買い物シャトルサービスについて、ニーズを把握することが大きな目的と考えるが、どういう方法でアンケート調査を行うか。今後、実証から本格運行へ移行させるに当たり、どれだけの利用者がいれば把握できれば良いと感じた。例えば、地域の全住民に対し、利用意向等を調査できれば参考になると思うが、どのように考えているか。</li> </ul>
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平群線エリアの運賃については、スマホ予約の場合と電話予約の場合で差を付けたいと考えている。エリア内利用の場合はいずれも 300 円とし、エリア外、イオンタウン館山や館山駅に行く場合は、500 円・700 円と電話の方が高い設定にしてスマホ予約に誘導したいと考えている。</li> <li>・豊房線エリアのニーズ調査については、ニーズ把握の方法についてまだ決め切れていない部分があるものの、実際に職員が乗車し、利用者の邪魔にならない範囲で会話をし、利用目的をはじめ生の声を伺うという定性的調査は必ずやりたいと考えている。一方、地区住民全員にアンケートをするといった定量的調査については実施未定だが、参考にさせていただき、どのくらいの利用者やニーズがあるかをしっかり把握したいと考えている。</li> </ul>
<p>本間委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平群線エリアの運賃について、エリア内は同一運賃としていることに理由等があれば教えてほしい。</li> </ul>
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2 回目の実証運行の際、エリア内の利用が少なかったことや、行きたい場所がイオンタウン館山と館山駅であったことから、そこを最も需要のある目的地とし、現状の平群車庫から上記 2 か所へのバス運賃を参考に 700 円の設定を行い、スマホ予約との差をつけることにした。</li> </ul>
<p>本橋委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平群線エリアについて、実証期間中は平群線が全面運休となるので、利用者への周知をしっかり行うようお願いしたい。</li> </ul>

事務局

- ・昨年度、一昨年度も実証運行を行っているが、これを受けて、今年度の実証運行における改善点やアピールポイント、例えばエリア外のイオンタウン等に直接行けることや、館山市内の2地区も対象エリアに含めること等だと思いが、狙い等について教えていただきたい。
- ・豊房線エリアについて、目的にあるとおり「既存バス路線の利用者が減少しており、ニーズ把握を行ってより利用しやすい運行形態とする」とあるのは分かるが、「令和5年度以降、既存路線の見直しを検討する」とあるのが気になった。一部だが、本路線を使うと、白浜地区から館山市内まで短時間で行けるといことで利用している人がいる中、JRバスと並行していることもあり、無くなってしまうのかとも考える。今後、どのように見直しを進めていくのか、現時点で決まっていることなどがあれば教えてほしい。
- ・平群線エリアの実証運行については、過去2回の実証運行の結果を踏まえ、行きたい場所まで直行できるということでエリア外目的地2か所を設定したところ。なお、過去の実証運行では、三芳分庁舎での平群線から丸線への乗継や車両の小型化、今まで直行できなかった安房地域医療センターへの乗入などを試行してきた。また、三芳地区の買い物需要への対応ということで、九重にあるスーパーときわやや九重駅、安房地域医療センターなど、住民の移動需要に応えるため範囲を拡大し、実証したいと考えている。
- ・豊房線の見直しについては、委員ご指摘のとおり、豊房線を使うとJRバスの南房州本線より10分短い30分で館山市内にアクセスできる。しかしながら、資料（協議第8号の2）の一番下に、豊房線に利用状況を記載しているとおり、1日当たり20人程度、1便当たり2人くらいしか乗っていないという現状がある。現時点で決まっていることは無いが、実証運行の結果と豊房線の利用状況を見て、廃止も含めての見直しを検討していくことになると考えている。現時点での決定事項は無いが、今後動きがあれば、逐次協議会でお諮りし、検討を進めていくことになると考えている。

進行 鈴木会長

事務局

### 【議事3：路線バス 白浜千倉館山線のダイヤ見直し進捗状況について】

○資料（報告第1号）に従い、前回会議で10月1日のダイヤ改正を目指し検討を進めていくこととした当該路線のダイヤ見直しについて、7月の平日5日間に全便を対象とした乗降調査を実施したうえで、2市及び運行事業者である日東交通とともに協議を進めてきたが、なお協議・調整が必要な状況であることを報告。合わせて、利用者ニーズや行政の補助金、運行事業者の運営体力等を加味し、利用者サイドの話だけでなく、事業運営面も含め最適な運行体制とするため、10月1日改正を見送り、協議を続けていきたい旨を説明のうえ、準備が整い次第、次回以降の会議でダイヤ改正案などをお諮りしていく予定であることを報告した。また、参考情報として調査結果の報告も行った。

高橋委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前回会議で 10 月 1 日にダイヤ改正を行う方向で承認いただいたところだが、各種調整が間に合わず、大変申し訳なく思っている。</li> <li>・ 今回実施した乗降調査の結果も踏まえ、持続可能な路線再編に向け、関係者間で協議調整を進めていく所存。</li> <li>・ 改正内容に関しては、決まり次第事務局と連携し皆様にご報告したい。</li> </ul>
松木委員 (代理：池田係長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今回のダイヤ改正に当たり、日東交通側でネックになっている事象が何なのか、具体的に教えていただきたい。行政側においては利用者数の動向が最大の関心事となるが、事業者側で課題となっている点を確認したい。</li> </ul>
高橋委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 慢性的な乗務員不足が続いており、一番の課題は乗務員を確保するためにダイヤを削減したいということである。もう一つは働き方改革に向けた改正を行いたいということである。</li> </ul>
進行：事務局 事務局	<p><b>【その他】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 館山市から、配布したチラシを基に、安房 3 市 1 町でご当地ナンバー導入について検討を始めたこと、それに伴い、市民の皆さん等の意向を確認するため、8 月 14 日まで、アンケートを実施していることを情報提供。アンケートについては興味があれば回答に協力いただきたい旨依頼した。</li> </ul>
簾谷委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 7 月 28 日に、プレス発表として利用が少ない線区の状況について公表した。詳細はホームページを参照いただきたいが、端的に言えば、この辺りだと館山～勝浦間が赤字路線になっているということが発表された。これは、コロナ以前の数値である。利用者減少が進んでいる中、今後、県も含め、行政とタッグを組んで活性化に向け協議していきたいと考えている。過日、商工会議所、観光協会とともに参加したセミナーでも旅行者の増加が要と言われていた。まだまだ地域資源を発掘すべきと考える。普段乗る人が減るのは仕方がない部分もあるが、観光面では JR バスを含め、JR グループとして利用促進を図りたいと考えている。</li> <li>・ 7 月 29 日に、第一四半期決算についてプレス発表を行った。JR 東日本全体で決算は黒字となり、3 期ぶりの黒字となった。ようやくコロナの影響から脱出しつつあると捉えている。GWの旅行需要が堅調だったと見られている。また、2023 年 3 月期において、関東圏ではコロナ前の 95%くらいまで戻る予測が出ている。新幹線も 90%まで戻る見通し。</li> <li>・ 夏期も順調であり、新幹線予約は好調。仙台までは満席便が多くなっている。</li> <li>・ 8 月 1 日に 2021 年度の駅別利用者数が発表されている。コロナ前と比べ、ほぼすべての線区で回復している。伸びが鈍いのは成田空港のみ。内房線も回復傾向である。</li> <li>・ 8 月 8 日に館山の花火大会が開催された。コロナ前の 2019 年度は 5,500 人の鉄道利用があった。今年度は縮小開催だったが、約 3,000 人の鉄道利用が見られた。</li> <li>・ 駅レンタカー館山営業所において、本日 8 月 10 日から電動バイクのレンタルを始めた。2 台配備されている。新たな二次交通を当社としても模索しているので、引</li> </ul>

<p>高橋委員</p>	<p>き続きご協力をお願いしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日東交通の高速バス利用状況についてご報告する。</li> <li>・依然として利用者減少が続いている状況。</li> <li>・毎回報告しているが、大きく変わっておらず、2019 年度比で約 3 割減となっており大変厳しい状況。</li> <li>・夏休み期間に入っているが、コロナ感染者数の増加が取り上げられており、外出自粛や自家用車での移動が多くみられるようになっている。</li> <li>・また、夏休み期間に入り、平日でもアクアラインの渋滞が慢性的に発生し、利用者には大変なご迷惑をおかけしている。</li> <li>・引き続き、感染防止対策を講じながら安全運行に努めていくので、公共交通機関の利用をお願いしたい。</li> </ul>
<p>平野委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月、8月は本地域ではタクシー利用者が最も多い。</li> <li>・コロナ前と比べ8割くらいまで戻ってきているが、夜間の利用者が少なく、時短営業となっておりご迷惑をおかけしている。</li> <li>・7月には、南房総市丸山地区のタクシー事業者が廃業しており、業界としてはまだまだ厳しい状況と言える。</li> <li>・1月に、本地域及び鴨川エリアのタクシー事業者が合同でタクシー旅プランの実証を行ったが、今年度も観光庁の補助事業により、来月下旬から2月にかけて前回と同じようなイメージで、地域活性化を目的とした実証事業を行う。地元の方にもマイクロツーリズムとして利用いただければと考えている。詳細については、決まり次第、次回以降の会議で報告する。また、観光協会等各所にはお知らせしたいと考えている。</li> </ul>
<p>事務局</p>	<p><b>【事務連絡】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次回の会議開催日程は未定。日程が決まり次第皆様に連絡する。</li> </ul>